

# 授業科目の概要

(2024年度実施内容。2025年度には一部変更の可能性あります)

## ▶現代心理学方法論

**心理学研究・統計法演習** 担当：今野 裕之／河野 理恵

心理学の研究法と統計法について、講義・演習と実習とを組み合わせ授業を行う。統計の実習については、データ入力など基本的なスキルから、統計ソフトを用いた統計的仮説検定などについて学習する。

**心理学研究法特論** 担当：亀井 美弥子

近年重要な研究視点・方法とされる質的研究法について学ぶ。研究法の理論や実例にふれながら、個々の問題関心から質的データを得、研究として完成させるための考え方や要件について具体的に解説する。

**調査研究・データ解析実習** 担当：川端 美樹／高橋 浩

調査研究法・データ解析の基本および理論を学び、グループワークによって調査を行い、調査研究レポートを執筆することで、修士論文研究の方法論として生かせる知識・能力を獲得することを目標とする。

## アカデミック・スキルズ

担当：奈良 雅之／川端 美樹／河野 理恵／大嶋 玲未

修士論文の作成に必要な基本スキルを学ぶ。具体的には、①論文構成や問題設定など論文の内容面についてのスキル、②論文の書式など形式面のスキル、③学会発表に必要なプレゼンテーションのスキルを学ぶ。

## ▶現代心理学特論

**心理学の歴史と理論** 担当：財津 亘

本科目では、心理学の成立期から現代に至るまでの各心理学の領域における主要な理論の系譜について学ぶ。特に心理学の発展に影響を与えた諸理論が確立されてきた背景や、理論と理論の繋がりについて学ぶことで、心理学への理解を深めることを目指す。

**認知心理学特論** 担当：河野 理恵

認知心理学のうち、とりわけ記憶に関する研究の論文を読解することにより、この領域における主要な理論について理解を深め、実験手続き、応用法などについて検討する。

**精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)**

担当：庄司 正実

精神医学の基礎知識を基に症例中心に精神医学を学習する。精神疾患に対するDSM-5の適用、治療法、予後や原因などについての理解を深め、臨床だけでなく研究にも役に立つ授業を目指す。

**発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)**

担当：小野寺 敦子

乳児期から高齢期までの発達の特徴および諸問題について、生涯発達の視点から学ぶ。授業では発達についての重要な理論を概観するだけでなく、最新の研究動向を扱った論文を積極的に取り上げ、専門知識を高める。

## 言語発達特論

担当：春原 則子<sup>\*</sup>／後藤 多可志<sup>\*</sup>／松本 かおり<sup>\*</sup>／森 つくり<sup>\*</sup>  
(※リハビリテーション学研究所 リハビリテーション学専攻所属)

本科目では、小児の言語と脳、言語発達について基本的な知識を得、さらに発達障害や後天性脳損傷、ダウン症や自閉症スペクトラム障害、吃音、難聴などの問題が背景にある各言語障害の評価や対応方法について学ぶ。

**非言語行動心理学特論** 担当：加賀美 常美代

非言語コミュニケーション(空間距離、視線、表情などの非言語行動)に関連する研究論文や研究成果の知見を通して、非言語行動と人間関係に関する理論や研究方法の理解を深め、応用可能性を検討する。

**社会心理学特論** 担当：今野 裕之

社会心理学のうち、社会的自己と対人関係について研究する分野である対人社会心理学領域の研究論文を読解することを通して、対人社会心理学の理論・知見・研究法について理解を深める。

**メディア・コミュニケーション特論** 担当：川端 美樹

社会におけるさまざまなメディアを用いたコミュニケーションについて、そのプロセス、内容、人々の社会的認知や社会に与える影響などについて議論し、メディアと人間の情報行動について理解することを目標とする。

**法と心理学特論** 担当：財津 亘

目撃者の供述、取調べ、裁判など、法の枠組みの中における心理学を深く理解するとともに、学童期以前・学童期・青年期・成人期以降といった発達段階における加害者の問題行動と可能な支援について考えていく。

**家族心理学特論** 担当：小野寺 敦子

家族が形成される過程、親として子育てをする過程で見られる夫婦関係、親子関係の変化に注目する。介護をめぐる家族問題にもふれる。

**産業組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)**

担当：大嶋 玲未

産業・組織心理学の4領域(組織行動、人事、消費者行動、作業・安全)それぞれのトピックについて学び、論文を基に議論する。

**スポーツ心理学特論** 担当：奈良 雅之

スポーツ選手、コーチなどスポーツ関係者への心理的支援をテーマに、トップアスリートのスポーツ活動に関する事例や資料を用いて問題提起し、解決のための方法や方策について検討する。あがり防止に用いられる呼吸法とその成果を評価するための生理的指標の記録についても体験する。

## ▶心理援助学特論

**カウンセリング再入門** 担当：真柄 希里穂

本専攻では、アカデミックな心理学を学ぶことと共に心理支援の学習・研究も重要な対象としている。本科目では、さまざまなカウンセリングの療法や技法について、バランスよく学び、心理支援の全体を俯瞰できるようにすることを目的とする。

**メンタルヘルス特論** 担当：庄司 正実

企業従業員のメンタルヘルスは社会的に重要な問題となっている。この授業では、企業従業員のメンタルヘルスがどんな状況にあるかを知り、その対策について考える。職場メンタルヘルスの実践的側面および研究的側面からの理解を深めることをこの授業の目的とする。

**産業カウンセリング特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)**

担当：中村 洸太

本科目では職場におけるメンタルヘルスについて、産業カウンセリングの概要、組織のメンタルヘルス問題(過労死、ハラスメント、休職など)、ダイバーシティなどを学び、組織や個人の問題解決をどのように支援していくか考えていく。

**キャリアコンサルティング特論** 担当：大嶋 玲未

本科目では、1)キャリアコンサルティング(キャリア開発支援)の基礎となる理論や技法を理解し、2)長寿化や経済構造の変化が進むこれからの時代におけるキャリア開発支援の課題や可能性について議論できるようになることを目指す。

**多文化心理援助学特論** 担当：加賀美 常美代

異文化接触のメカニズム、異文化受容と適応などについて学ぶとともに、外国につながる人々の多様な問題を把握し、危機介入や予防的教育的支援体制作りなど異文化間の多様な援助方法について理解を深める。

**犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)**

担当：財津 亘

BPSモデル(生物・心理・社会的要因)など多面的かつ総合的な観点から、さまざまな犯罪・非行の動機等を理解するとともに、犯罪・非行の防止および立ち直り等の支援を検討する。

**健康心理学特論** 担当：奈良 雅之

健康について心理学的視点、特に認知、感情、行動という視点から捉え論議することで、健康に関する理解を深め、研究方法論を獲得することにより、社会における健康づくりを支援する専門家としての素養を高める。

ハイブリッド型授業の実施

本学では、対面・遠隔を併用したハイブリッド型で授業を実施しています。

**言語発達の評価と支援** 担当：温泉 美雪

本講座では、言語発達障害の評価と診断の方法を学ぶ。発達検査を用いた言語発達の評価の仕方について演習を行う。また、自閉症スペクトラム障害、AD/HD、学習障害などの認知行動特性と、学校や家庭などにおける支援方法を学習する。

**心理援助学実習I・II** 担当：小野寺 敦子／庄司 正実

既にさまざまな現場で心理援助やヒューマンサービスに従事している学生を対象に、精神科医、臨床心理士、臨床発達心理士として豊富な実績を持つ教員が、個別もしくは少人数のスーパービジョンやコンサルテーションを定期的に行う。

## ▶研究指導

**現代心理学特別研究(指導教員によって対面・遠隔の授業形式が異なります)**

修士論文研究指導に相当する。学生は指導教員が決まるとそのゼミに所属し、ゼミ単位で、また個別に指導を受ける。

## [カリキュラムと時間割の特徴]

- 現代心理学専攻では、学部新卒者から社会人までさまざまなタイプの学生の諸条件とニーズに応じた履修計画を立てることができます。
- 平日午後10単位、夜間に20単位、土曜日に6単位、そのほか集中講義などに6単位が配置されています(心理援助学実習I・II/各1単位、現代心理学特別研究/4単位は除く)。必修科目はこのうち4科目10単位のみで、1年次春学期の週3日程度の夜間を中心とした履修になります。修了に必要な他の20単位以上は自由に選択できます。

## 履修スケジュール例①(夜間・土曜講義受講を前提に履修する場合の1年次)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	※平日第1～2時限は現代心理学専攻の授業はありません。					言語発達特論
2						言語発達特論
3						発達心理学特論
4						発達心理学特論
5						
夜1			心理学研究・統計法演習	カウンセリング再入門	産業組織心理学特論	
夜2				調査研究・データ解析実習	アカデミック・スキルズ	
夜1			心理学研究・統計法演習		心理学の歴史と理論	
夜2				調査研究・データ解析実習	アカデミック・スキルズ	

●…春学期 ○…秋学期

◆上記のほか、秋学期集中講義で心理学研究法特論を履修。

## カリキュラム(修了要件:30単位以上)

	科目名	単位数		配当年次	備考
		必修	選択		
現代心理学方法論	心理学研究・統計法演習(▲)	2		1	
	心理学研究法特論		2	1・2	必修を含め6単位以上選択必修
	調査研究・データ解析実習(▲)		2	1	
	アカデミック・スキルズ(▲)		2	1・2	
現代心理学特論	心理学の歴史と理論(▲)	2		1	
	認知心理学特論(*)		2	1・2	
	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	
	発達心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)(*)		2	1・2	
	言語発達特論(*)		2	1・2	
	非言語行動心理学特論		2	1・2	必修を含め6単位以上選択必修
	社会心理学特論		2	1・2	
	メディア・コミュニケーション特論		2	1・2	
	法と心理学特論(*)		2	1・2	
	家族心理学特論(*)		2	1・2	
心理援助学特論	産業組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	
	スポーツ心理学特論		2	1・2	
	カウンセリング再入門(▲)	2		1	
	メンタルヘルス特論		2	1・2	
	産業カウンセリング特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	
	キャリアコンサルティング特論		2	1・2	
	多文化心理援助学特論		2	1・2	必修を含め6単位以上選択必修
	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)		2	1・2	
	健康心理学特論(*)		2	1・2	
	言語発達の評価と支援(*)		2	1・2	
研究指導	心理援助学実習I(▲)		1	1・2	
	心理援助学実習II(▲)		1	1・2	
現代心理学特別研究(▲)		4		2	

(\*)：臨床発達心理士受験資格取得のための指定科目。そのほかに臨床心理学専攻、生涯福祉研究科生涯福祉専攻の指定科目の履修が必要。

注1)臨床心理学専攻の希望者は▲印のある科目を除く全科目を履修できる。なお、他研究科からは資格取得に関する場合に限って履修を認めることがある。

## 履修スケジュール例②(資格取得などを旨して学業に専念する場合の1年次)

	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	※平日第1～2時限は現代心理学専攻の授業はありません。					言語発達特論
2						言語発達特論
3						発達心理学特論
4						発達心理学特論
5						
夜1			心理学研究・統計法演習	カウンセリング再入門	アカデミック・スキルズ	
夜2			発達障害臨床心理特論	調査研究・データ解析実習	アカデミック・スキルズ	
夜1			心理学研究・統計法演習		心理学の歴史と理論	
夜2				調査研究・データ解析実習	アカデミック・スキルズ	

●…春学期 ○…秋学期

◆上記のほか、秋学期集中講義で言語発達の評価と支援、心理学研究法特論を履修。